

2018年度 新専門医制度

呼吸器内科

研修プログラム到達目標

呼吸器内科医としてのキャリア形成のために

プログラム責任者 杉山温人

連絡先: hasugiya@hosp.ncgm.go.jp

プログラムの概要

- 幅広い呼吸器疾患を経験する中で、鑑別の進め方と治療法、胸部X線・胸部CT・呼吸機能検査などの非侵襲的検査、気管支鏡検査・胸腔穿刺とドレナージ術などの侵襲的手技、呼吸器感染症における感染予防策などを身につけていきます。
- 呼吸器外科、放射線治療部、病理医、リハビリテーションなど他科との連携を通して呼吸器疾患の包括的マネジメントに関わります。
- 学術的な発表の機会、先進的医療に関わる機会によって深い疾患理解とキャリア形成を支援します。
- 医師・看護師・薬剤師・ソーシャルワーカーなど他職種と連携し適切なリーダーシップがとれることを目標にします。

呼吸器内科のプログラムの特徴

□豊富な症例と疾患多様性

入院、外来ともに数多くの患者さんが当科を受診します。肺癌、肺炎、COPD、気管支喘息、間質性肺炎といった一般的な呼吸器疾患に加えて、肺真菌症、サルコイドーシスなど幅広い疾患の患者さんを担当できます。指定機関でないといと診られない結核診療に関わることができる点は、当院呼吸器内科の大きな特徴です。

□充実した指導医と同僚

指導医は疾患別の専門性をもちながら互いに連携して診療にあたっています。各分野の専門家から意見を聞きながら診療に当たることができます。また、レジデントが多く、切磋琢磨、助け合いながら研修を進めています。

□先進的医療

胸腔鏡による胸膜生検や気管支動脈塞栓術も内科で行っています。サーモプラスティとよばれる気管支喘息の先進的医療を実践しています。複数の多施設共同研究や治験に参加しており、先進的な医療にかかわる機会があります。

□カンファレンス

日常的にプレゼンテーションの機会がたくさんあり、症例の共有、教育の機会となります。

ローテーション期間による研修内容

□3か月

問診、診察などの基本を習得し、コメディカルを含めたチーム医療のリーダーとして入院患者の診療にあたります。胸部X線・CTの基本的な読影、呼吸機能検査の判読について学びます。胸水穿刺術を経験し、気管支鏡検査に助手として参加します。

□4.5か月

気管支鏡検査に術者として参加します。入院患者を中心に、呼吸器疾患の診断と治療への理解を深めます。

□6か月

胸腔鏡、サーモプ्लाスティなどに助手として参加します。希望、卒後年数、経験等に応じて結核外来も担当できます。症例報告を中心とした学会、勉強会での発表の機会をもちます。

ローテーション期間による研修内容

□1年

他科からのコンサルテーションや救急患者の対応を行いながら、呼吸器疾患の診断、治療におけるマネージメント能力を身につけます。治験業務にも参加します。

□2年

外来診療に対応し、入院から外来まで連続した診療に当たります。呼吸器専門医の取得に必要な症例経験を自指します。自分で臨床研究を企画、実施することも可能です。

□その他

期間を問わず、院内で定期的に行われる病理検討会に参加し、結核疑い患者の院内感染対策ミーティング、保健所とのDOTS会議などにも参加できます。院外でも開催される多くの呼吸器関連の研究會に当科のメンバーが関わっており、最新の知識を入手しながら他施設との情報交換が可能です。

研修終了後の進路

- 当科でフェローとして呼吸器領域の診療・研究に従事することができます。その他、希望により大学病院、呼吸器の専門病院、研究機関などに紹介します。
- これまでの卒業生の進路：大学病院、がんセンター、各総合病院、厚生労働省、Master of Public Health取得など
- 日本呼吸器学会の研修施設に認定されており、当院で経験した症例を通じて専門医を取得できます。
- より専門性を高めるための資格取得に向け研鑽を積むことができます（呼吸器内視鏡、アレルギー、結核、臨床腫瘍など）